
ゴッドオネイチャン（仮）

佐々木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴッドオネイチャン（仮）

【Nコード】

N8824M

【作者名】

佐々木

【あらすじ】

高校一年、入学してまだ一ヶ月。

そんな主人公（男）には姉がいる。

同じ高校の二年生で、学校での評判はかなりいいらしい。

勉強ができて、美人。面倒見もよく、人に慕われる。

生徒の間だけでなく、教師の間でも評価が高いのか、主人公は「あの人の弟さん」という扱いをされることが多い。

だが、姉はただの良い人では無かった。

ウチに帰ると姉は一変するのだ。

神のごとき絶対権力をふりかざす姉。下僕気質な主人公はブツクサいいながらも姉のいいなり。

主人公「姉萌えなんて嘘だろ。いまどきそんな都市伝説信じてるやつなんかいない」

プロローグ

女子高生が履いているパンツ。

こつ聞くと大抵の男は何かの病気にかかっているかのように息を荒くし、鼻血を吹き出さんとする。

だがちよつと待つて欲しい。

女子高生が履いているパンツが、女モノであると、誰が言っただらうか。

「姉ちゃん！ いい加減に俺のパンツ履くのやめてよ！」

「えー、いいじゃん別に。減るもんじゃなし」

「減る！ 俺の中の何かが確実に減ってるよ！」

「細かいことでグチグチとうるさいなあ……」

「細かくない！ じゃあさ、仮に俺が姉ちゃんのパンツ履いたらどうするよ？」

「履けば？」

「……」

俺の姉ちゃんは、何故か俺のパンツを勝手に履く。

一度「なんで履くの？」と聞いたところ「楽だから」との返事が返ってきた。

どうやらトランクスタイルのパンツは締め付けが無いために楽らしい。

へえ、そうなんだ。じゃあしょうがないわけあるか！！

いくら言っても一向にやめる気配がないので、母さんに相談したこともある。

「母さん……。姉ちゃんが俺のパンツ勝手に履くんだけど……」
「あら、別にいいじゃないそれぐらい。母さんも履くし」
「あんたもかいイ！」

第一章 できたお姉さん

「じゃ、今日は連絡事項ないしもう終わりでいいや」
黒板の前に立った先生がつけ、今日も学校が終わった。
生徒たちがサヨナラ、とか部活メンドクセーとか話しながら席を立ち、教室から人が減っていく。
俺は部活に入っていないし今日は掃除当番もないから、すぐに家にかえることになる。

「はあ……」
俺は思わずため息をついた。姉ちゃんどうにかならぬだろうか。まあでもいつまでも机に座って落ち込んでいるわけにもいかない。掃除する人の邪魔になつてしまう。
そう思ったときに、後ろから勢い良く肩を組まれた。

「うーっす、よしきゅん！ 帰ろーぜ！」
「のわっ！ 武田このやろう！ よしきゅんって言うな気持ち悪い！」

俺の名前は月野義則。『よしのり』だから『よしきゅん』なわけだが、高校一年男子にそんな呼び方されても嬉しくもなんともない。むしろ気持ち悪い。キモイとかじゃなくて気持ち悪い。

「まーま、いいじゃないの。で、帰るんだろ？」
「……帰るけどさ」

そしてこいつは武田忠信。高校に入学してから出来た友人だ。まだ入学してから一ヶ月ちょっとしかたっていない俺の、貴重な友人の一人。

俺は立ち上がって、カバンを肩にかける。

ふたたびため息をつく、武田に指摘された。

「ため息つく、と幸せが逃げるっていうぜ、よしきゅん。なんかあったの？」

「だからよしきゅんっていうな！ ……いや、なんもないけど、家に帰るのメンドクサイなって」

正確には家に帰って、姉の世話をするのがメンドクサイ。しかしそのことは武田にはいわなかった。

「どんだけ無気力なんだよ！ いーじゃん、ヨシノリにはかわいなお姉さんがいるんだから。俺だつたら速攻で家に帰る！」

その姉が嫌なんだよ。だが口にはださない。

「武田だつて妹いるんだろ。姉より妹のほうがいいじゃんか」

歩いて教室をでた。一年は四階なので下駄箱まではけっこう遠い。

「いや、妹より姉のほうがいい！ お姉ちゃんは溢れ出る優しさで包みこんでくれるだろ」

「んなわけねーだろ！ 姉なんかあれだぞ、年上という特権を利用して弟を奴隷のようにこき使ったり、気付かないところで俺のプリンを食つたりとか、ヒエラルキー的なものがひどいんだぞ！」

「え、そーなの？ あのキレイなお姉さんが？」

「そーだよ！ 妹なら逆の立場になるだろ。でも俺は妹にひどいことなんかしない。むしろ年上の包みこむような優しさを発揮して愛でる！ 絶対に姉より妹のほうがイイ！」

ふっ、柄にもなく力説してしまつたかな。

「へえ、そうなんだ。姉より妹のほうがいいんだ」

後ろから声がかげられる。

びくり、と俺の体が跳ねた。

この声は……。

「え、ええと……」

「あ！ ヨシノリのお姉さん！ こんにちは！」

振り返る。そこに立っていたのは俺の姉ちゃんだった。

姉ちゃんは武田に微笑み、こんにちは、と返すと俺を見た。いかん、ダラダラと嫌な汗が出てきた。

「夕飯の買い物につきあってもらおうと思ったけど、武田くんと一緒に帰るのね。邪魔しちゃ悪いからひとりで行くわ」

「いや、その……一緒に行かせてもらいます」

「ううん、いいわ。武田くんが悪いもの」

名前が出た武田はピシと姿勢をただした。

「や、俺は大丈夫ツス！ どうぞ持つてってください」

物扱いするなと思ったが、いまの俺に発言権はない。

「そう？ でも悪いし」

「いえ、全然問題ないです！ お姉さんの為なら！ むしろ光栄ツス！」

ふふ、と姉ちゃんは笑った。

「ありがとうね」

……みんなこの外ヅラのよさに騙されるのだ。

「じゃあ行くわよ」

言って姉ちゃんは昇降口に歩き出した。

武田をみると「さっさといけ」とばかりに手をぶらぶらさせる。

「わりい」

と俺が言つと武田はニヤニヤと笑った。

「いいって。ほら行っちゃまうぞ」

俺は姉ちゃんを追いかけて階段を早足でありた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8824m/>

ゴッドオネイチャン（仮）

2010年10月9日22時21分発行